'79 6
No. 85
昭和54年6月15日発行
発行 横越村役場

広報 よこごし

おもな内容

1. 子供を水から守る運動（1P）
2. 改選後初の議会開催（2P）
3. 野球審判部結成（3P）
4. 県展奨励賞に小栗さん（3P）
5. 公民館結婚式200組記念（4P）
6. 中日友好の船（4P）
7. 早起野球四ブロックでリーグ戦（4P）

盆栽シリーズ ⑤ ふじ （横越下 五十嵐仲次氏所有）

6月～8月 子供を水から守る運動

子供の水の犠牲者 交通事故の一、四倍

水が恋しくなる六月

毎年このころになると、悲惨な子供の水の事故が目立って増えます。

水の事故は、一年中起きているのですが、とくに六月～八月が多く、その中でも農村地帯の事故がもっとも多く発生しています。それは農繁期で農業用水路には満々と水が流れ、子供にとっては危険な所がふえている上、幼児があたたかくなると水遊びをするようになるなど、危険な条件がかさなりあい、多く発生します。

昨年は五百七十六人の子供（中学生以下）が尊い命を落としています。これは、同じ六～八月の子供の交通事故死者四百十四人を百六十二人も上回っており、いかに、水の犠牲者が多いかを物語っています。

子供たちの水の事故は、ほんのちょっとしたスキに起こります。例えば、親が立ち話に夢中になっている間に、あるいは、家庭での炊事や洗たくなどをしている間に目をはなしたすきに、用水路や、家庭、浴槽、防火用水などにはまってしまったというようなケースも多くあります。

とくに幼児の場合は自分で危険かどうか判断できませんのでおもわぬところで事故が発生します。保護者は子供の身になって、安全を考えてあげてください。

子供を水の事故から守るために、保護者は次のような点に注意をしましょう。

▽子供たちだけで、水泳や水遊びに行かないようにふだんから注意する。行くときは保護者などが同伴する。

▽水遊びや、危険な水辺で遊んでいる子を見かけたら声をかけ、安全な場所で遊ぶよう注意する。

▽ふだんから保護者は家の回りや近所などでの危険な場所を把握しておき、子供達を近かづけさせないこと。

▽家の近くにため池や用水路掘などがあって、サクとかフタがなく危険な状態のまま放置されているときは、所有者に申し入れて早く処置してもらう。

▽雨降りの後など川や用水が増水しているときは、子供を近づけないよう、特に注意をする。

◎地域ぐるみで 水死事故に対する 理解と関心を

幼児（六才未満）の死亡事故のうち、水死事故と交通事故をくらべて見ると圧倒的に水死事故が多い。交通事故の場合、悲惨な印象が強いのにくらべ水死事故は印象がうすい。みんなでもっと地域ぐるみで水死事故に対する理解と関心をもちましょう。

横丁話

澄み切った朝の空気を胸一杯に吸いながら「カッコー」「カッコー」と鳴くカッコ鳥の声を聞くと野球が三度の飯より好きだ？と人に云われ小生には「あゝ早起きだなあ！」と血が騒ぐ。

思えば、新潟市の早起き野球大会の第一回から第六回迄朝四時頃に飛び起きて試合に行ったものだ、肩を痛めプレー出来ない今でも懐かしい季節である。

村の早起き野球大会も第五回目を迎え、昨年より「チーム多く、登録選手の中には往年の選手あり、新人ありで、三百六十六名が大会にのぞんだ。又、今年より村に審判団が出来、そして、くじ運？が悪く一回戦で敗れるチームや「せめて一勝を」と云う選手の熱意を感じんでか？四ブロックでリーグ戦をやり、上位二チームで決勝トーナメントをやると云う事で全員張り切っている。

野球、バスケット、ラグビー、バレー、サッカー、等の様にチームワークを必要とするものもあり、ゴルフの様に自分でスコアーをつけるものもあるが、全てのスポーツにはルールがあり、己に勝つ忍耐力が必要である。そして最後迄自分の持てる力を発揮しゲームセットになったら爽やかな気持で相手を賛え、勝っても、負けてもミーティングをやる。実社会に於いてもスポーツ以上にルールがあり、厳守しなければいけない事は云うまでもないが、時として審判居ないからとか、自分自身のスコアーを甘くつけたりする時もない訳ではない。実社会の生活に於いてもスポーツの様にゲームセットになったら爽やかな気持で過去を振り返り、そして、生きる為に何をしたら良いか、何をしたら社会に貢献出来るかを皆で考えつゝけて行きたいものである。（山崎）